

令和6年度農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）

事業主体名 鹿児島県立鶴翔高等学校

1 目的

阿久根市の農業従事者の担い手不足は厳しい状況が続いており、農業が産業としての基盤を脅かしかねない喫緊の課題である。本校は、令和元年度から阿久根市と包括連携協定を結び、地域で活躍できる人材育成に相互連携で取り組んでおり、本事業と一体化することで、より多くの生徒・児童が農業に対して興味・関心を深めて本校に進学し、将来農業に関する仕事に携わることを目標としている。

生産から加工、そして販売まで行う6次産業化への取組や広い視野とグローバルな取組、体験的な学習を通して農業への理解を促すことで、職業としての意識を根付かせ農業関連産業への就職を増やしていきたい。さらに、上級学校への進学を目標とする生徒の育成も行い、上級学校卒業後は、高度な技術と知識を身に付け先進的な農業を実践する担い手として地元就農につなげていきたい。

2 実施状況

(1) 地域貢献活動実施

農家の収穫時期の人手不足は慢性的に起きている。本校は、7年前から阿久根市農政課、JA鹿児島いずみ、北薩地域振興局と協働で、阿久根三笠地区の紅甘夏生産農家へ収穫繁忙期に本校生徒が地域貢献活動として支援を行っている。

今年度は2日間実施できた。冬期休業中はアルバイトという形で地域農家への支援活動を積極的に行った。今後も地域農家の担い手不足を補う活動を行っていききたい。また、今年度も農家委託実習を5日間実施でき、地元農家の管理作業や農家の声を直接聴くことができ勉強になった。



紅甘夏収穫実習

(2) 視察研修の実施

食品技術科1年生は、日高水産加工・濱田酒造・セイカ食品に研修に行かせてもらった。スマート農業や6次産業、先進的なアグリビジネスを展開している事業所の話を聞くことで農業に対する興味・関心を高め、学ぶ意欲の向上を図ることができた。

農業技術科1年生は、小田畜産と県立農業大学校での研修であった。牛肉の輸出を展開する小田畜産のマーケット戦略や次代の農業のあるべき姿等の話を聞く機会を得ることができた。また、農業大学校の先進的な施設を見学することができ、進路選択の一つとして考える機会になった。



視察研修（1年生）

3 今後の課題、取組

本校の課題は第一に生徒確保である。地域の小中学校や地域の方々に本校の取組を知ってもらう必要がある。出前授業や農業体験学習で小中学生に、地域のイベントなどに積極的に参加して、地域の方々に本校の取組を紹介しているが、思うような成果が出ていないのが現状である。しかし、何かが足りないから生徒が集まらないのであって、その理由を探るべく今後も活動していきたい。「地域あつての学校」をスローガンに今後も地域と一体となって農業後継者の育成に取り組んでいきたい。



視察研修（2年生）